



令和6年12月号 Vol.82  
情報メディア教育センター

12月。お店や街中などで、クリスマスツリーやイルミネーションを見かけます。年末商戦やクリスマス、イベントなどで寒い夜を華やかにしてくれる冬の風物詩ですね。さて、イルミネーションの起源は、約500年前ドイツの宗教改革家マルティン・ルターがモミの木にロウソクを立てて飾ったことと一説では言われているそうです。

現在ではLEDが一般的なようですが、ロウソクも幻想的で美しいでしょうね。



司書の読書感想文

# 『アイミタガイ』

偶然のふれあいが  
誰かの心をそっとゆらす

著者が鈴鹿市在住で、映画原作の話題本。ヒントにされた実在のお店があるとか、映画は県内各地で撮影されたと聞きし、興味津々で読了。異なる背景がある5つの短編からなり、内容が少しずつリンクし、登場人物がちょっとした課題を抱えながら過ごしている物語です。

そんな”普通の人々と彼らの日常”が描かれていることが本書の特徴の一つかと思います。特別目を引くような人物が登場するでもなく、衝撃的な出来事が起こる訳でもありません。むしろ現実に出会いそうな人々の世界が広がります。物語が静かに進行しながら、自然とふむふむと頷き、登場人物の気持ちに寄り添っているような不思議な感覚になる本でした。

より共感したのは、電車で会う人々の描写や心情。私自身も、毎日、同じ時間・車両で会う方々は話さずとも、今日もいるかと存在確認していたかと。本作を読むまでは忘れかけていた自分自身の電車での一コマ。そんな場面をいくつか思い出しました。こういう部分も、読書の面白いところだなと思います。

そして作品の大きな魅力は、ふとしたふれあいや何気ない会話から、登場人物の心に変化がジワジワ起き、気づきを得ていく部分だだと思います。時には閉ざされた気持ちがほぐれたり励まされたり。他者とのふれあいや偶然の出来事、ともすると見過ごしそうな一瞬（例えば本作にもあるように写真で切り取ったような場面から）でも、どこかの誰かが、今後進む道のヒントや、影響を受けることは意外と多いのかもしれないと感じました。また、それぞれの視点の違いを読むことで、価値観の違いや心の動きの重要さに気づかされます。映画ではどんな視点から作られているのかも気になります。

『アイミタガイ』とは、”同じ境遇の人が互いに同乗し、助け合うこと”という意味だそうです。些細なことが影響し助け合っているとすると。私が電車で会った“漫才をして車内を大笑いさせていた小学生二人”も、“突然飴ちゃんくれたおば様”も、あの車内の誰かの気持ちを救ってたかもしれないなあなんて想像したり。心温まるお話でした。映画もぜひ見てみたいです。(大原)



『アイミタガイ』

中條てい/著 幻冬舎



## 新着図書ピックアップ



新着ピックアップは毎月、司書が「これは、ぜひ読んで!」と思う本を選びすぐってお届けします。

### 『雫』

寺地 はるな【著】 NHK 出版

人生の分岐点のジュエリーデザイナーと、中学の頃から30年友人関係の3人との記憶に時々戻りながら進む物語。タイムリープとは違いますが、少し逆再生っぽくなっていて、新鮮です。周りの人が共感してくれなかったらと自信が持てない中学生の頃、「好き」なことや「主張」を言うのは意外に難しかったりする。でも30年かかって、それらと正面切って向き合っていく4人のそれぞれの人生や思いが切なくてちょっぴり苦くて、ほんのり喜ばしかったりして、良かったです。マルチタスクが優れている器用さんでも乗り越えられないことがあり、不器用でも自分の好きを貫いて着実に強く生きる人もいます。優しい関西弁も和みました。(大原)



### 『うそコンシェルジュ』

津村紀久子【著】 新潮社



各年代の主人公が登場する短編集なので、誰でも一つくらいは刺さるモノがあるかと思われます。津村さんのお話は、山も谷もなく、日常が淡々と続いていく様子がつづられている事が多いのですが、この本もそう。生活の中で遭遇する、ちょっとした違和感を、ピンポイントでついてきます。「はて?」と思ってもすぐ忘れてしまうくらい小さな出来事を取り上げて、それをのりりくらしとかわし、ちょっとしたスッキリを与えてくれる本です。(矢田)

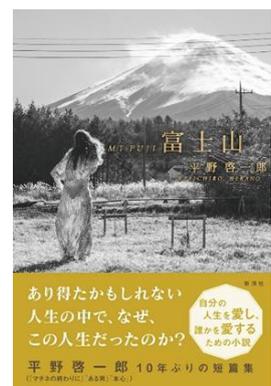
### 『富士山』

平野啓一郎【著】 新潮社

もしあの角を曲がっていたら…もしあの人に会えなかったら…、自分は今は違う人生を歩んでいたかもしれない。こんなふうに考えたことはありませんか?

この本は「もし…していたら、していれば」の短篇集。「息吹」は空想の平行ワールドに入りこみ過ぎて、現実世界との区別がつかなくなってしまうお父さんが主人公。1人のストレスが人から人へ次々に伝播していく「ストレス・リレー」では、些細なことで人生が一変します。

人生は分岐点の連続、偶然の連なり。あり得たかもしれない別の人生を考えることで、「今の自分もまあまあ」と思えればそれでいいのかな。(大塚)



EMCでは新着図書を「ブックログ」で紹介しています。

「ブックログ」トップページ ▶ カテゴリー ▶ 2024年11月新着

⇒<https://booklog.jp/users/suzukakyoelib>

今月の新着本は1月頃、配架(貸出開始)予定です。



読んだ本についてだけは、<sup>がぜん</sup>俄然イキリだす

## 藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.75

『監禁依存症』 榎木理宇【著】



## 12月の開館予定

12月	
1 日	休館
2 月	8:10-18:50
3 火	8:10-18:50
4 水	8:10-18:50
5 木	8:10-18:50
6 金	8:10-17:50
7 土	休館
8 日	休館
9 月	8:10-17:50
10 火	8:10-17:50
11 水	8:10-17:50
12 木	8:10-17:50
13 金	8:10-17:50
14 土	休館
15 日	休館
16 月	8:10-17:50
17 火	8:10-17:50
18 水	8:10-16:50
19 木	8:10-16:50
20 金	8:10-16:50
21 土	休館
22 日	休館
23 月	8:10-15:30
24 火	8:10-15:30
25 水	8:10-15:30
26 木	休館/館内整理
27 金	休館
28 土	休館
29 日	休館
30 月	休館
31 火	休館

秋もあつという間に過ぎ去り、先月中旬から急に冬の装いに…ああ～早く春よ来い～(ノド)…。今年最後の本は、中等前期課程の生徒からおすすめされた本を紹介しします。個人的に明るめの本で2024年を締めくりたい気持ちはありましたが、『監禁依存症』かなりパンチの効いた見るからにかなりダークな内容を予感させるタイトル。そして、表紙のデザインを見ても、「目には目を歯には歯を。」「同じ地獄をお前にも。」などの文字が並んでおり、話の結末がタイトル・表紙からある程度想像することができます。きつとパッドエンドで終わる系の物語だろうな、どの程度の悲惨な結末を迎えるのかな、とダークな期待をしつつ、読み始めました。

性犯罪者の弁護を得意とし、数々の性犯罪の示談を成立させ剛腕弁護士として地位を築いた弁護士がいた。被害者側を責め立てて心を折ることで示談に持ち込む手口で悪名高かったためこの弁護士を怨む被害者家族は多かった。海外出張中のある日、弁護士のひとり息子が誘拐される。警察は、怨みをもつ被害者家族の犯行を推測し捜査を進めるが、想像の斜め上をいく結末に。

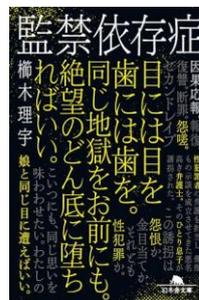
本書は、性犯罪の被害者側の心情がものすごくリアルに描写されています。物語のほとんどが被害者側の描写で読者側のメンタルも相当やられてしまいます。

(もし、自分の娘が…と想像するだけで私のメンタルはボロボロでした。)

明日から頑張ろう＼(^o^)/的な活力を与えてくれる本ではないため、そんな本を求めている方は回れ右です。

ちなみに、『監禁依存症』の他にも『殺人依存症』『残酷依存症』とシリーズ化されているようです。一

応、公開順に紹介すると、『殺人依存症』『残酷依存症』『監禁依存症』のようです。話が繋がっているのかは、他シリーズを読んでいないので不明ですが、興味のある方はシリーズ通し読みをしてみたいかたがでしょうか。残念ながら EMC には、『殺人依存症』と『残酷依存症』の2冊の蔵書はありません…。ただ、他のシリーズは、シグロすぎてこれは精神的な拷問、想像を越える残酷さ、いろんな悪意の塊、というレビューをみたので、私は『監禁依存症』だけにしておきます。基本的にハッピーエンドの物語が好きなので…。



『監禁依存症』 榎木理宇【著】 幻冬舎



### 第8回 加藤 史織先生おすすめ

『10代のための生きるヒント』

—みんなとちがっても大丈夫！—

笹田 夕美子【著】



ひとりで抱えている悩みがあったり、この社会での生きづらさを感じていたり、そんな子たちへの50のヒントがかかれた本を紹介しします。無理にまわりに合わせなくても、頑張りすぎなくても、目の前の壁から逃げても、それでいいんです。しあわせの形は人それぞれ。自分のまま、相手のまま、多様性を認め合い、ともにこの社会で生きていく。絡まった糸がほどけるような、そんな一冊です。

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどうなたに渡るかな？

祝！  
75回記念

藤崎一臣の本、読んでいこう！

図書日より第2号から登場した「藤崎一臣の本、読んでいこう」。

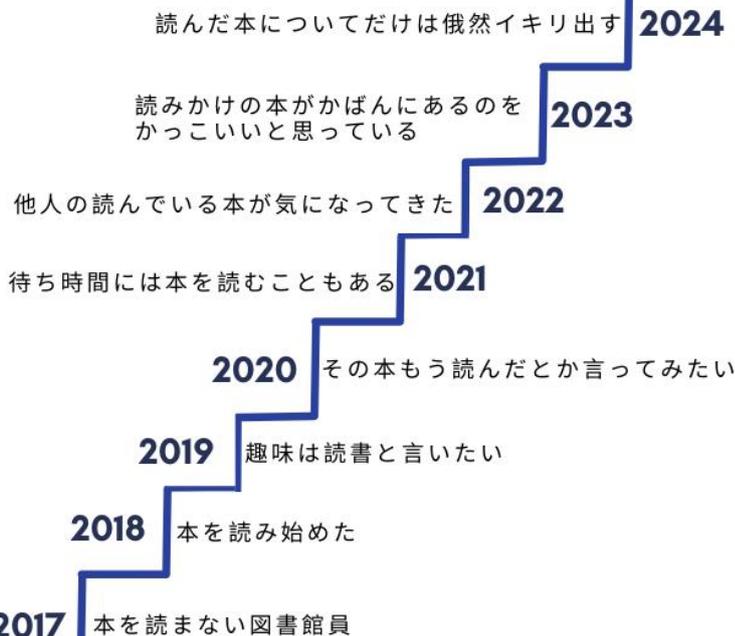
当時、1冊も本を読んだことがなかった藤崎さんに無理やり書評を書かせたのがはじまり。以後、読みに読みまくって75回を数えるまでに。当初はAmazonの書評パクリ疑惑が浮上したこともありましたが、今ではしれっと手を抜くことも覚えてしまいました。それでも文章はなかなか面白くなってきたのではないのでしょうか。

本人は100回で卒業を熱望していますが果たして実現するのか。今後の展開に目が離せません。

藤崎さんの連載コーナーのタイトルについて肩書きを知っていますか。毎年ちょっとずつレベルアップしているのです。

今回の企画はそんな藤崎さんの上達ぶりを感じながらご堪能いただきたいと思います。

“連載”はまだ終わっていない



書き続ける者



同時  
開催

カリオン  
ヨンゴタ  
モラ  
借りて読んで答えて貰おう

1月	
1 水	休館
2 木	休館
3 金	休館
4 土	休館
5 日	休館
6 月	休館
7 火	8:10-15:30
8 水	8:10-16:50
9 木	8:10-17:50
10 金	8:10-17:50

図書館からのお知らせ

- 冬休みの間、本の長期貸出をおこないません。12月18日(月)～26日(火)の期間に本を借りると、返却日は一律で1月8日(水)です。
- 開館時間延長  
受験シーズン到来！1月20日(水)から18:50まで開館時間延長します。



新春は、EMC オリジナル図書みくじ。  
1月8日(水)からスタート。

